

図書館に関する話題 第21回

「カタチのない資料」を使い倒す

附属図書館資料管理グループ主任 須田 久美子

◆新聞記事でタイムトリップ

学生の皆さんは、自分が生まれた頃にどんな出来事があったか、知っていますか？ 気になった人は附属図書館で導入中の読売新聞記事データベース「ヨミダス歴史館」を利用してみましょう。自分の生年月日を入力して検索ボタンを押すだけ。その日に報道された新聞記事の他、当時の流行・時事が反映された新聞広告や雑誌記事の見出しまで見ることができます。

私の生まれた 1979 年 7 月 7 日の読売新聞はというと、「大都市マンション・地方一戸建て」という見出しが大きくおどろき、建設省（当時）による住宅政策・都市再開発計画を伝える 1 面。それに呼応するかのような住宅メーカーの宣伝広告、宅地・中古住宅売買情報のオンパレード！ 様々な暮らし方の選択肢が増えてきた時代だったのでしょうか。じゃあ、母の生まれた日は？ 消費税が 3 % で始まったあの時は？ と、気が付くと私はパソコンの前で 1 人タイムトリップしてたりします。

図書館では、古い新聞は縮刷版という保管しやすい冊子で所蔵しているので、書庫へ行って見る事はできます。しかし、こうしたデータベースを使うと、私たちはパソコンの前ですぐに電子化されたお目当ての記事を読む事ができるわけです。

◆姿は見えねど、ここにあり ―カタチのない資料―

でもこれは、ほんの一例。最近、図書館に並んでいる雑誌が少なくなったと思いませんか？ 学生の皆さんはまだあまり縁がないかもしれませんが、これらは買わなくなった訳ではありません。紙の雑誌が電子版に変わってきているのです。また本学や他大学の研究成果として発行される様々な紀要も、各大学で運営している学術機関リポジトリで電子版として公開されています。つまり、先ほどの新聞の例のように、書庫まで冊子体を借りに行かずとも、パソコンやスマートフォンから雑誌記事や先生方の論文を読むことができます。

参考として、本学の雑誌の受入種類数の推移を紹介しましょう。10 年前の平成 20 年は、冊子体の雑誌は 24,840 種類、電子ジャーナルは 2,687 種類でした。そして平成 30 年 3 月には、これが冊子体 24,315 種類、電子ジャーナル 7,047 種類となっています。つまり、みなさんがインターネットで読むことのできる雑誌がこの 10 年でおよそ 2.6 倍になっているということです。

◆この便利さ、実感してください。

電子化されることで、私たちは CiNii Articles などの文献データベースを使ってキーワードで検索した際に、検索結果から電子版の論文記事そのものへ飛んでいき、すぐに全文を読むことも可能になりました。スマホアプリに話しかけるように、思いつくままキーワードを入れてみてください。同じキーワードで実に様々な時代の記事がたくさん出てくことに気付くはずですよ。そして雑誌や新聞の記事は単行本に比べ分量も少ないので、あっという間に読んでしまうことができるので、その時代、その時代の最新（だった）またはトレンド（だった）情報を、実に効率的に収集することができると言えるでしょう。

わざわざ図書館に行くのは面倒だな～、という方。（そう言わずに来ていただけるとうれしいのですが）まずは電子版の資料の存在を思い出してください。あなたの目の前のパソコンやスマホが図書館の書庫になっているのです。

本文中で紹介した各種データベース

- ・ヨミダス歴史館(読売新聞記事検索データベース)

※明治からの新聞記事を紙面イメージそのまま検索できます。(同時アクセス1・学内LANから利用)
※学期末のレポート作成期間には同時アクセス数を増やしています。詳しくは図書館Twitterなどで告知しますので、ぜひご利用ください！

- ・CiNii Articles(文献検索ツール)

※雑誌に掲載された論文等をキーワードで検索できます。「本文あり」の条件を指定すると、電子版で本文がすぐ読めるものだけを効率的に検索できます。

デジタル・アーカイブの紹介

「東遊雑記」について

附属図書館医学情報グループ 齋藤 香織

「東遊雑記」とは、江戸時代中期の地理学者、古川古松軒(ふるかわ こしょうけん)が、天明8年(1788)幕府巡見使に随従し、東北地方を經由し北海道まで旅した際の紀行文です。各地の人情風俗や地理について記述し、道具類や風景の絵も挿入されています。姉妹編に、山陽と九州を旅した記録の「西遊雑記」があります。

本学においてデジタルアーカイブ化した「東遊雑記」は、附属図書館ではなく人文社会科学部の所蔵資料です。元の所有者、成田彦栄(なりた ひこえい)氏(1898~1959)は、医業の傍ら、郷土資料の保護・収集に尽力され、郷土史(特に考古学関係)に多くの業績を残しました。2009年に成田氏ご遺族より収集資料の大部分を本学に寄贈していただき、その後成田氏旧蔵書の目録作成の作業中に発見されたのが、この資料です。昭和30年に京都の古書店より購入したものと推測されています。

「東遊雑記」には数多くの写本がありますが、この本は部分的な写本と思われます。奥付には、本来は巻之二と六の2巻だったものを、3巻に装丁し直したとあります。保存状態も良好で、着色の美しい図も忠実に写されています。東北地方出身または在住の方は、見知った地名(鶴岡、横手、石巻、松島等)が数多く出てきて、興味深く読めるのではないのでしょうか。東洋文庫版では「弘前」についての記述がありますが、この写本には入っておらず、その数日前までの記述となっているのが少々残念です。

この本は江戸時代の資料であり、保存・取扱いに注意を要するため、デジタルアーカイブ化して公開することとしました。画像データは巻毎にまとめられ、クリックにより本をめくる感覚で読めるようになっています。本文は手書きの文字ですが、「弘前大学 國史研究」に掲載された翻刻が、本学リポジトリにて無料公開されていますので、あわせてご覧ください。



挿絵